(19)日本国特許庁(JP)　(12)登録実用新案公報(U)　(11)実用新案登録番号
実用新案登録第3149988号
(U3149988)
(45)発行日　平成21年4月23日(2009.4.23)　(24)登録日　平成21年4月1日(2009.4.1)

(51)Int.Cl.　F I
A01M 29/00 (2006.01)　A01M 29/00 E

評価書の請求 未請求　請求項の数 7　ＯＬ　（全 12 頁）

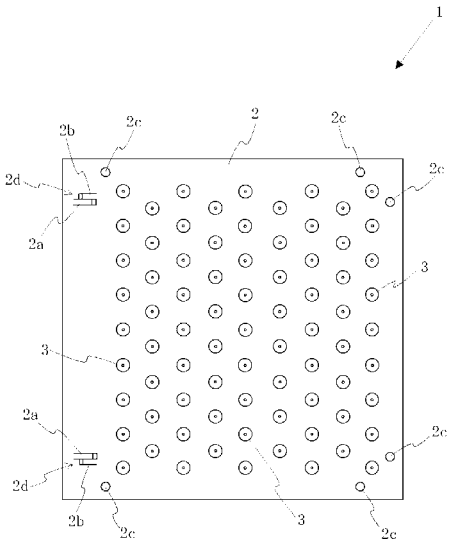
(21)出願番号　実願2009-628(U2009-628)
(22)出願日　平成21年2月10日(2009.2.10)

(73)実用新案権者　305010159
菅原　敦
茨城県稲敷郡阿見町中央７－７－１７
(74)代理人　100093816
弁理士　中川　邦雄
(72)考案者　菅原　敦
茨城県稲敷郡阿見町中央７－７－１７

(54)【考案の名称】鳥獣痛痒学習器

(57)【要約】　（修正有）

【課題】主に田畑の農作物や樹木を荒らす鳥獣から農作物や樹木を守ることと、野良犬、野良猫の住居敷地内への侵入を防ぐことを目的とした鳥獣痛痒学習器を提供する。
【解決手段】上記の課題を解決するために、プレート２と、該プレート２の表面に設置した複数の突起体３とからなることを特徴とする鳥獣痛痒学習器と、プレート２を、少なくとも１辺の辺付近にフック２ｄを設け、残りの辺の少なくとも１辺の辺付近に連結孔２ｃを穿設したプレート２とし、フック２ｄを他のプレートの連結孔２ｃに係止して拡張した鳥獣痛痒学習器としたことを特徴とする。
【選択図】図１



【実用新案登録請求の範囲】
【請求項１】
プレートと、前記プレートの表面に設置した複数の突起体とからなることを特徴とする鳥獣痛痒学習器１。
【請求項２】
前記プレートを、正方形、長方形、台形、扇形、三角形のいずれかの形状のプレートとしたことを特徴とする請求項１に記載の鳥獣痛痒学習器。
【請求項３】
前記プレートを、少なくとも１辺の辺付近にフック設け、残りの辺の少なくとも１辺の辺付近に連結孔を穿設したプレートとし、前記フックを他のプレートの連結孔に係止して拡張した鳥獣痛痒学習器としたことを特徴とする請求項１又は請求項２に記載の
鳥獣痛痒学習器。
【請求項４】
前記フックが、前記プレートの一部を前記辺側の１辺を残し切り上方に盛り上げた係止フックと、前記係止フックの側方に、前記プレートの一部を前記係止フックに対向するよう１辺を残し切り上方に前記係止フックより低い位置に盛り上げた外れ防止フックとからなり、前記係止フックに他のプレートの連結孔を係止し、他のプレートの連結孔がある辺を前記外れ防止フック下に位置させることを特徴とする請求項３に記載の鳥獣痛痒学習器。
【請求項５】
前記連結孔を、平面略Ｔ字形状とし、前記フックを前記辺から前記プレート面に対して略水平方向に突出した接続部と、前記接続部の端部に接合した係止部からなるＴ字フックとしたことを特徴とする請求項３に記載の鳥獣痛痒学習器。
【請求項６】
前記プレート２の全辺の辺付近に、少なくとも１つ連結孔を穿設したことを特徴とする
請求項１～請求項５の何れか１項に記載の鳥獣痛痒学習器。
【請求項７】
前記突起体を画びょうとし、前記プレートに接着、又は磁石を介して鉄製プレートに設置したことを特徴とする請求項１～請求項６の何れか１項に記載の鳥獣痛痒学習器。
【考案の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本考案は、主に田畑の農作物や樹木を荒らす鳥獣から農作物や樹木を守ることと、至る所で糞尿をする野良犬、野良猫の住居敷地内への侵入を防ぐことを目的とした鳥獣痛痒学習器に関する考案である。
【背景技術】
【０００２】
従来、田畑の農作物を鳥獣から守るためには、太陽光や光を反射するプレートや害鳥を威嚇する模様を施した風船を田畑の周りに吊り下げて配置したり、一定時間毎に空砲を鳴らす装置を設置したり、田畑の全面に網を取り付けたりしていた。
【０００３】
また、一般住宅では野良犬や野良猫の敷地内への侵入を防止するために水をいれたペットボトルを敷地周辺に配置していた。
【０００４】
しかしながら、上記のような太陽光や光を反射するプレートや害鳥を威嚇する模様を施した風船では設置当初に一定の効果が見られるが、時間が経つにつれて鳥獣が慣れてしまい防止効果が薄れることがあった。
【０００５】
また、一定時間毎に空砲を鳴らす装置では、空砲が鳴らない時間帯は鳥獣の侵入を防止することができず、また回数を重ねる毎に鳥獣が空砲に慣れてしまい防止効果が薄れることがあり、更にこれらに加えて設置費用がかかるという問題があった。

【０００６】
一方、一般住宅街で手軽に行われていたペットボトルによる野良犬等の侵入防止方法では、上述のように野良犬等も次第に慣れてしまい防止効果が薄れることもあったが、これに加えて水を入れたペットボトルがレンズの代わりとなり太陽光を収束させて火事に繋がることがあった。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００７】
【特許文献１】特開２００２－１５３１９６号公報
【考案の概要】
【考案が解決しようとする課題】
【０００８】
そこで、本考案は、設置及び撤去が容易であり、設置コストも低廉で、火事等の心配がなく、鳥獣が何度か踏んで痛痒を体感することで本考案を設置した場所自体が痛痒を感じる場所だと学習し次第に近づくことがなくなる鳥獣痛痒学習器を提供することを目的とするものである。
【課題を解決するための手段】
【０００９】
本考案は、上記の課題を解決するために、プレート２と、前記プレートの表面に設置した複数の突起体３とからなることを特徴とする鳥獣痛痒学習器１と、
前記プレート２を、正方形、長方形、台形、扇形、三角形のいずれかの形状のプレートとしたことを特徴とする鳥獣痛痒学習器と、
前記プレート２を、少なくとも１辺の辺付近にフック設け、残りの辺の少なくとも１辺の辺付近に連結孔を穿設したプレートとし、前記フックを他のプレートの連結孔に係止して拡張した鳥獣痛痒学習器としたことを特徴とする鳥獣痛痒学習器、
前記フックが、前記プレートの一部を前記辺側の１辺を残し切り上方に盛り上げた係止フック２ａと、前記係止フックの側方に、前記プレートの一部を前記係止フックに対向するよう１辺を残し切り上方に前記係止フックより低い位置に盛り上げた外れ防止フック２ｂとからなり、前記係止フックに他のプレートの連結孔を係止し、他のプレートの連結孔がある辺を前記外れ防止フック下に位置させることを特徴とする鳥獣痛痒学習器と、
前記連結孔を、平面略Ｔ字形状とし、前記フックを、前記辺から前記プレート面に対して略水平方向に突出した接続部と、前記接続部の端部に接合した係止部からなるＴ字フックとしたことを特徴とする鳥獣痛痒学習器と、
前記プレート２の全辺の辺付近に、少なくとも１つ連結孔を穿設したことを特徴とする鳥獣痛痒学習器と、
前記突起体を、画びょうとし、前記プレートに接着、又は磁石を介して鉄製プレートに設置したことを特徴とする鳥獣痛痒学習器の構成とした。
【考案の効果】
【００１０】
本考案の鳥獣痛痒学習器は、設置コストがかからず取扱いも簡単であるため農業従事者の多くを占めるお年寄りでも設置することができ、農作物を作ることがない休耕期間などは容易に撤去することができる。
【００１１】
また、本考案は従来のように光の反射や爆音により鳥獣を退散させるものではなく、鳥獣に痛痒を与えて近づいては行けない場所であると学習させるため侵入防止効果が大きく、その効果期間も長い。
【００１２】
また、本考案は従来のペットボトルのような光を収束させることがないため、火事などの心配がなく一般住宅でも気軽に使用することができる。
【００１３】

更に、本考案は様々な形状をしているため、それらを組み合わせることにより色々な場所で所望の形状に設置、使用することが可能である。

【図面の簡単な説明】

【００１４】

【図１】本考案である鳥獣痛痒学習器の平面図である。

【図２】本考案である鳥獣痛痒学習器の正面図である。

【図３】本考案である鳥獣痛痒学習器の一部拡大図である。

【図４】本考案である鳥獣痛痒学習器の第２実施例の平面図である。

【図５】本考案である鳥獣痛痒学習器の第２実施例の正面図である。

【図６】本考案である鳥獣痛痒学習器の第２実施例の連結状態を示した拡大図である。

【図７】本考案である鳥獣痛痒学習器の第３実施例の平面図である。

【図８】本考案である鳥獣痛痒学習器の第４実施例の平面図である。

【図９】本考案である鳥獣痛痒学習器の第５実施例の平面図である。

【図１０】本考案である鳥獣痛痒学習器の第６実施例の平面図である。

【図１１】本考案である鳥獣痛痒学習器の第７実施例の平面図である。

【図１２】本考案である鳥獣痛痒学習器の第８実施例の平面図である。

【図１３】本考案である鳥獣痛痒学習器の第９実施例の平面図である。

【図１４】本考案である鳥獣痛痒学習器を使用した状態を示した図である。

【考案を実施するための形態】

【００１５】

設置及び撤去が容易で、火事等の心配がなく、鳥獣に痛痒を体感させることで設置場所に近づくことが危険であることを学習させる鳥獣痛痒学習器を、表面に無数の突起体を備えたプレートに係止フックと連結孔を形成して連結可能とすることによって実現した。

【実施例１】

【００１６】

次に図１から図３を使用して本考案である鳥獣痛痒学習器を詳細に説明することとする。図１は本考案である鳥獣痛痒学習器の平面図、図２は鳥獣痛痒学習器の正面図、図３は鳥獣痛痒学習器の一部拡大図である。

【００１７】

図１から図３に示すように、本考案である鳥獣痛痒学習器１は、四角形状の平板プレート２と、前記プレート２の表面（上面）に設置される複数の突起体３、３、３・・・とからなる。

【００１８】

前記プレート２の少なくとも１辺の辺付近にはフック２ｄが設けられており、残りの辺の辺付近には連結孔２ｃが穿設されている。

【００１９】

図２及び図３に示すように、前記フック２ｄはプレート２の一部を辺側の１辺を残して切り上方に盛り上げた係止フック２ａと、前記係止フック２ａの側方にプレート２の一部を係止フック２ａに対向するように１辺を残して切り上方に盛り上げた外れ防止フック２ｂとからなり、外れ防止フック２ｂの頂点は係止フック２ａの頂点よりも低い位置にある。即ち、係止フック２ａと外れ防止フック２ｂの間には空間がある。

【００２０】

図１に示すように、１辺には２つのフック２ｄを設けることが好ましいが、この数については１つ以上であればよく、また辺が長い場合は２つ以上を設けても構わない。但し、前記フック２ｄを２つ以上設ける場合は、各フック２ｄ間の距離は一定であり、残りの辺に穿設する連結孔２ｃ間の距離もフック２ｄ間の距離と同一であることが望ましい。

【００２１】

前記プレート２は、鉄板、特にトタン板が好ましいが、特に限定したものではない。

【００２２】

図２に示すように、前記プレート２の上面に設置される突起体３、３、３・・・は、プ

レート２に対して垂直に設置されており、即ち突起体３の先端が上方に向かった状態で設置されている。

【００２３】

突起体３のプレート２への取付けについては、突起体３の底面部とプレート２を接着剤等により取り付ける方法や、プレート２が鉄板やトタン板のように磁石を付けることができる素材であれば突起体３の底面部に磁石を取付けて設置してもよい。

【００２４】

図面上では、突起体３に画鋲を使用しているが、特に画鋲に限定したものではなく、釘等であってもよい。尚、釘の場合はプレート２の底面から打ち付けて釘の先端がプレート２の上面より突出するように取り付ける。

【００２５】

上記の構成である鳥獣痛痒学習器１同士の連結については、一方のプレート２の任意の連結孔２ｃを他方のプレート２の係止フック２ａに係止させることにより連結することができる。係止フック２ａに係止された他方のプレート２は外れ防止フック２ｂにより容易には外れることができない状態にある。

【００２６】

上記のように鳥獣痛痒学習器１は縦横方向に連結することができるため、設置場所にあった形状に連結することができる。

【実施例２】

【００２７】

次に図４から図６を使用して本考案である鳥獣痛痒学習器の第２実施例を説明することとする。図４は本考案である鳥獣痛痒学習器の第２実施例の平面図、図５は鳥獣痛痒学習器の第２実施例の正面図、図６は鳥獣痛痒学習器の第２実施例の連結状態を示した拡大図である。

【００２８】

図４から図６に示すように、本考案である鳥獣痛痒学習器１ａは、実施例１で説明した鳥獣痛痒学習器１とほぼ同じ構成である。即ち、本考案である鳥獣痛痒学習器１ａは、四角形状の平板プレート２と、前記プレート２の表面（上面）に設置される複数の突起体３、３、３・・・とからなり、前記プレート２の少なくとも１辺にはプレート面に対して略水平方向に突出した状態でＴ字フック２ｈが設けられており、残りの辺の辺付近にはＴ字孔２ｅが穿設されている。

【００２９】

図４に示すように、前記Ｔ字フック２ｈはプレート面に対して外方に向かって略水平方向に突出した接続部２ｆと、前記接続部２ｆの先端に接続部２ｆに対して垂直に取り付けられた係止部２ｇからなり、平面より見た場合に略Ｔ字状をしている。

【００３０】

また、プレート２の辺付近に穿設されたＴ字孔２ｅは、文字通りＴの字状の連結孔であり、図６に示すように前記係止部２ｇをＴ字孔２ｅの横孔に下側から挿通した後、Ｔ字孔２ｅの縦穴方向（プレート２の外面方向）にスライドさせることでプレート２同士を連結することができる。

【００３１】

図５及び図６に示したように、前記接続部２ｆは正面から見た場合に緩やかに湾曲しているが、これは素材が鉄板であった場合であり、前述のようにトタン板等の可変可能な素材の場合は、通常の状態が真っ直ぐであってもよい。

【００３２】

図４に示すように、１辺には２つのＴ字フック２ｈを設けることが好ましいが、この数については１つ以上であればよく、また辺が長い場合は２つ以上を設けても構わない。但し、前記Ｔ字フック２ｈを２つ以上設ける場合は、各Ｔ字フック２ｈ間の距離は一定であり、残りの辺に穿設するＴ字孔２ｅ間の距離もＴ字フック２ｈ間の距離と同一であることが望ましい。

【００３３】
以上のように実施例１と実施例２の鳥獣痛痒学習器の違いは、プレート２に設けられたフック２ｄとＴ字フック２ｈの違いと、連結孔２ｃとＴ字孔２ｅの違いであり、プレート２に取り付けられている突起体３やプレート２の素材については同じである。
【実施例３】
【００３４】
次に図７を使用して、本考案である鳥獣痛痒学習器の第３実施例を説明することとする。図７は本考案である鳥獣痛痒学習器の第３実施例の平面図である。
【００３５】
図７に示すように、本考案である鳥獣痛痒学習器１ｂは、実施例１で説明した鳥獣痛痒学習器１とほぼ同じである。即ち、四角形状の平板プレート２と、前記プレート２の表面（上面）に設置される複数の突起体３、３、３・・・とからなり、プレート２の向かい合う２辺にフック２ｄを設け、他の向かい合う２辺に連結孔２ｃを穿設した。
【実施例４】
【００３６】
次に図８を使用して、本考案である鳥獣痛痒学習器の第４実施例を説明することとする。図８は本考案である鳥獣痛痒学習器の第４実施例の平面図である。
【００３７】
図８に示すように、本考案である鳥獣痛痒学習器１ｃは、実施例１及び実施例３で説明した鳥獣痛痒学習器１、１ｂとほぼ同じである。即ち、四角形状の平板プレート２と、前記プレートの表面（上面）に設置される複数の突起体３、３、３・・・とからなり、プレート２の隣り合う２辺にフック２ｄを設け、残りの隣り合う２辺に連結孔２ｃを穿設した。
【実施例５】
【００３８】
次に図９を使用して、本考案である鳥獣痛痒学習器の第５実施例を説明することとする。図９は本考案である鳥獣痛痒学習器の第５実施例の平面図である。
【００３９】
図９に示すように、本考案である鳥獣痛痒学習器１ｄは、実施例１、実施例３及び実施例４で説明した鳥獣痛痒学習器１、１ｂ、１ｃとほぼ同じである。即ち、四角型状の平板プレート２と、前記プレート２の表面（上面）に設置される複数の突起体３、３、３・・・とからなり、プレート２の３辺にフック２ｄを設け、残りの１辺に連結孔２ｃを穿設した。
【００４０】
実施例３～５に示すように、プレート２の１辺にフック２ｄを設けて残りの３辺に連結孔２ｃを穿設する以外に向かい合う２辺や隣り合う２辺及び３辺にフック２ｄを設けて残りの辺に連結孔２ｃを穿設することにより、鳥獣痛痒学習器同士を連結する際にプレート２の向きを変えたりして連結方法を考える必要がなくなり、設置時間を短縮することができる。
【実施例６】
【００４１】
次に図１０を使用して、本考案である鳥獣痛痒学習器の第６実施例を説明することとする。図１０は本考案である鳥獣痛痒学習器の第６実施例の平面図である。
【００４２】
図１０に示すように、本考案である鳥獣痛痒学習器１ｅは、実施例１及び実施例３から実施例５で説明した鳥獣痛痒学習器１、１ｂ～１ｄとほぼ同じである。即ち、四角型状の平板プレート２と、前記プレート２の表面（上面）に設置される突起体３、３、３・・・とからなり、プレート２の４辺全てに連結孔２ｃを穿設した。
【００４３】
上記のようにプレート２の４辺全てに連結孔２ｃのみを穿設してフック２ｄを設けない

場合、プレート２同士の連結には別途ヒモや針金等を使用しなければならないが、プレート２同士の連結の際に辺同士を合わせる必要がなく、例えば角付近の２つの連結孔２ｃ、２ｃに他のプレートの角付近の２つの連結孔２ｃ、２ｃを重ねて連結することでプレート２同士を斜めに連結することも可能となる。

【実施例７】

【００４４】

次に図１１を使用して、本考案である鳥獣痛痒学習器の第７実施例を説明することとする。図１１は本考案である鳥獣痛痒学習器の第７実施例の平面図である。

【００４５】

図１１に示すように、本考案である鳥獣痛痒学習器１ｆは、前記プレート２の形状を長方形状にし、長辺の連結孔２ｃの数を増やしたものである。連結孔２ｃについては、穿設する数は増えたが、連結孔２ｃ間の距離は一定であり、即ち他の辺に設けたフック２ｄ間の距離と同じとなっている。

【００４６】

図１１では、短辺と長辺の長さがおよそ１：２であるため、連結孔２ｃの数が３つとなっているが、長辺の長さが更に長い場合は、連結孔２ｃの数はそれ以上となっても構わない。

【実施例８】

【００４７】

次に図１２を使用して、本考案である鳥獣痛痒学習器の第８実施例を説明することとする。図１２は本考案である鳥獣痛痒学習器の第８実施例の平面図である。

【００４８】

図１２に示すように、本考案である鳥獣痛痒学習器１ｇは、前記プレート２の形状を台形状にし、一方の斜辺にフック２ｄを設け、他方の斜辺に連結孔２ｃを穿設した。この鳥獣痛痒学習器１ｇを複数連結することで中央の空いた多角形を形成することができ、例えば樹木の根本を取り囲むような設置をすることができる。

【００４９】

尚、前記鳥獣痛痒学習器１ｇの台形状のプレート２の上底及び下底にはフック２ｄや連結孔２ｃを設けていないが、特に限定したものではないため設置しても構わない。上底及び下底にフック２ｄや連結孔２ｃを設けることにより、より複雑な形状に鳥獣痛痒学習器を連結することが可能となり、設置場所の範囲も広がる。

【実施例９】

【００５０】

次に図１３を使用して、本考案である鳥獣痛痒学習器の第９実施例を説明することとする。図１３は本考案である鳥獣痛痒学習器の第９実施例の平面図である。

【００５１】

図１３に示すように、本考案である鳥獣痛痒学習器１ｈは、前記プレート２の形状を扇形にし、一方の直線片にフック２ｄを設け、他方の直線片に連結孔２ｃを穿設した。この鳥獣痛痒学習器１ｈを複数連結することでドーナツ形を形成することができ、実施例８の鳥獣痛痒学習器１ｇと同様に、樹木の根元を取り囲むような設置をすることができる。

【００５２】

尚、上記実施例３から実施例９に示した鳥獣痛痒学習器１ｂ、１ｃ、１ｄ、１ｅ、１ｆ、１ｇ、１ｈのフック２ｄをＴ字フック２ｈとし、連結孔２ｃをＴ字孔２ｅとしてもよい。

【００５３】

最後に図１４を使用して、本考案である鳥獣痛痒学習器１～１ｈの使用例を説明することとする。図１４は本考案である鳥獣痛痒学習器を使用した状態を示した図である。

【００５４】

図１４に示すように、鳥や小動物を飼育している飼育小屋４の周辺を取り囲むように本考案の鳥獣痛痒学習器を複数連結して設置することで鳥や小動物を狙う動物の侵入を防止

することができる。

【００５５】

図１４のように鳥獣痛痒学習器を設置することで飼育小屋４の動物５を狙う他の動物は飼育小屋４の手前で突起体３を踏むことで痛みを感じ、何度か試みるうちに飼育小屋４の周囲が危険であると学習し、次第に近づかなくなる。

【００５６】

この他、一般の家庭では、住居の敷地周囲に設置することで野良犬や野良猫の侵入を防止することができ、庭に池や飼育水槽が設けられている場合は池や水槽の周囲に設けることで野良猫による被害を防止することができる。

【００５７】

また、また畑や田んぼ等の周囲に設けることで農作物を守ることができ、更に本考案をトタン板等の可変可能な部材である場合には、樹木に巻き付けて設置することでクマなどの被害を防止することができる。

【産業上の利用可能性】

【００５８】

以上のように、本考案にかかる鳥獣痛痒学習器を使用することで、鳥獣に幾度となく痛み等を感じさせることにより、設置した場所の周辺が痛みを感じる場所だと学習させ、最終的に鳥獣が近づくことがなくなり鳥獣の被害を防止することができる。

【００５９】

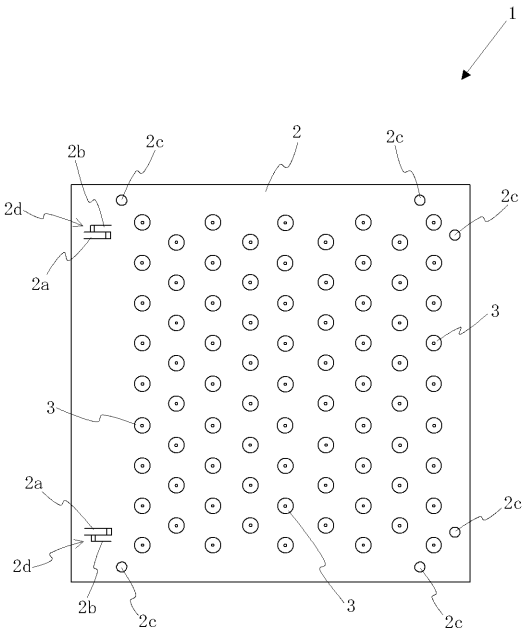
また、設置及び撤去が容易であり、様々な形状に組み合わせることが可能であるため、色々な場所で使用することができる。

【符号の説明】

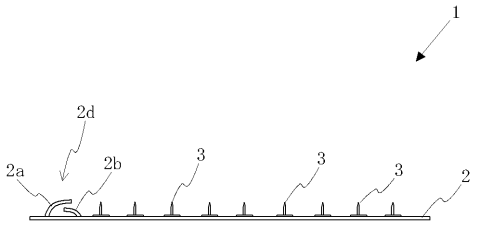
【００６０】

１～１ｈ	鳥獣痛痒学習器
２	プレート
２ａ	係止フック
２ｂ	外れ防止フック
２ｃ	連結孔
２ｄ	フック
２ｅ	Ｔ字孔
２ｆ	接続部
２ｇ	係止部
２ｈ	Ｔ字フック
３	突起体
４	飼育小屋
５	動物

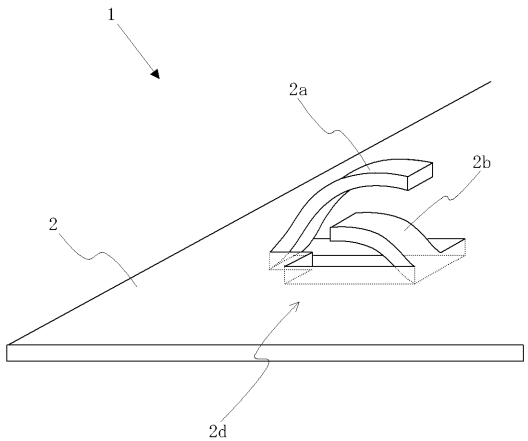
【図１】


1
2
2b
2c
2c
2c
2d
2a
3
3
2a
2c
2d
2b
2c
3
2c

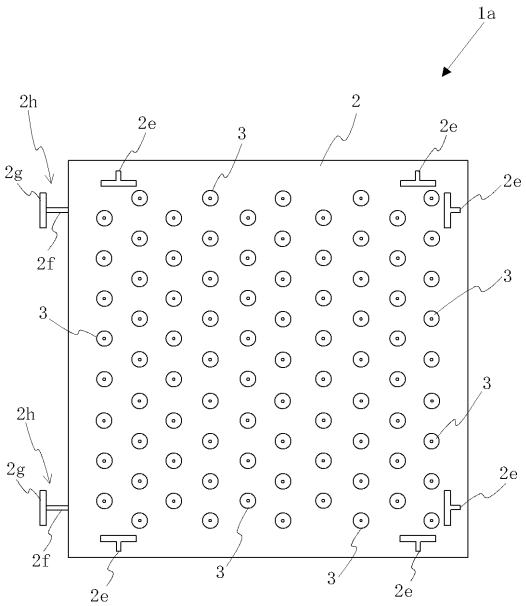
【図２】


1
2d
2a
2b
3
3
3
2

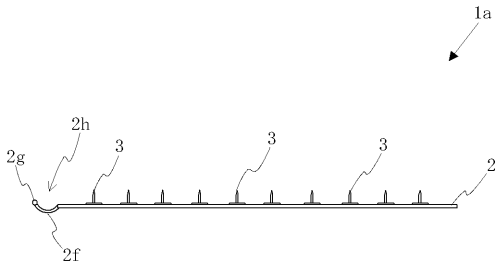
【図３】


1
2a
2b
2
2d

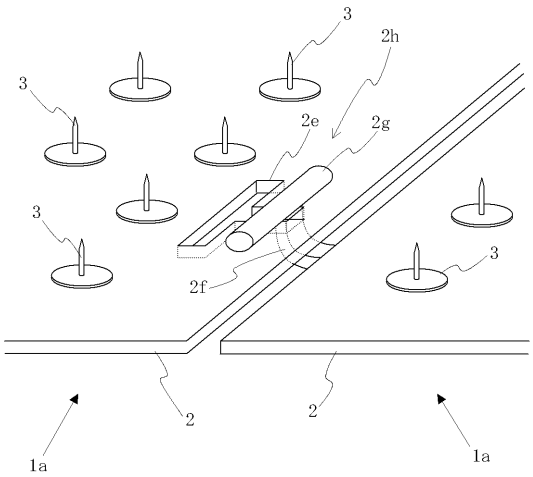
【図４】


1a
2h
2e
3
2
2e
2g
2e
2f
3
3
2h
3
2g
2e
2f
2e
3
3
2e

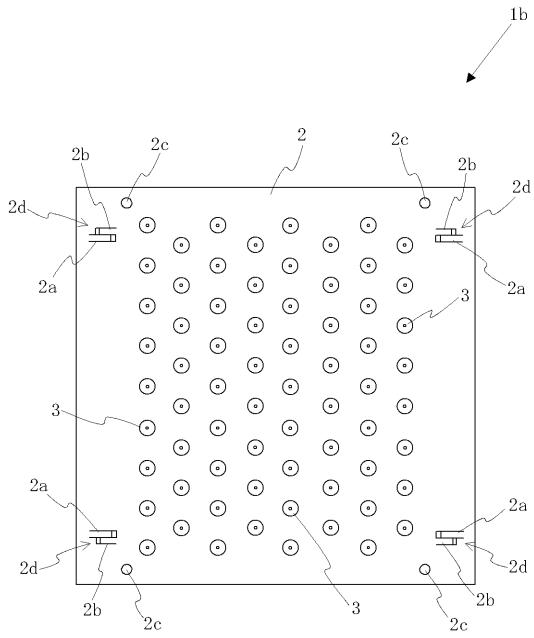
【図５】


1a
2h
2g
3
3
3
2
2f

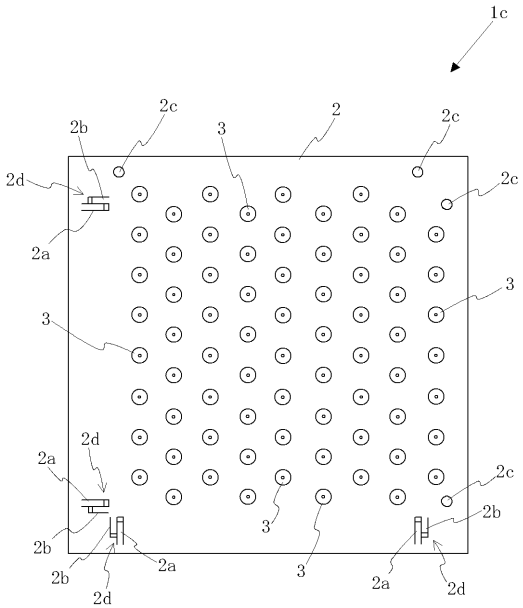
【図６】


3
2h
3
2e
2g
3
2f
3
2
2
1a
1a

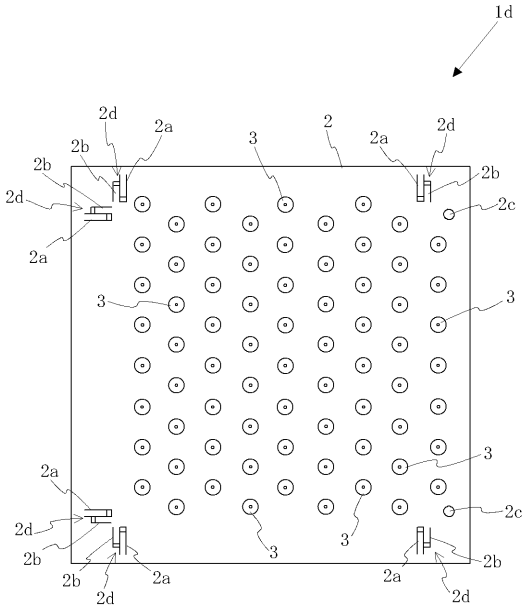
【図７】


1b
2b
2c
2
2c
2b
2d
2d
2a
2a
3
3
3
2a
2a
2d
2d
2b
2c
3
2b
2c

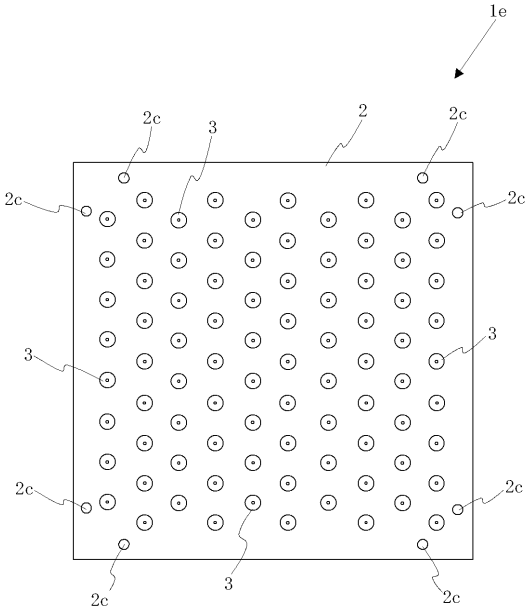
【図８】


1c
2b
2c
3
2
2c
2d
2c
2a
3
3
2d
2a
2c
2b
2b
2a
2b
2d
3
3
2a
2d

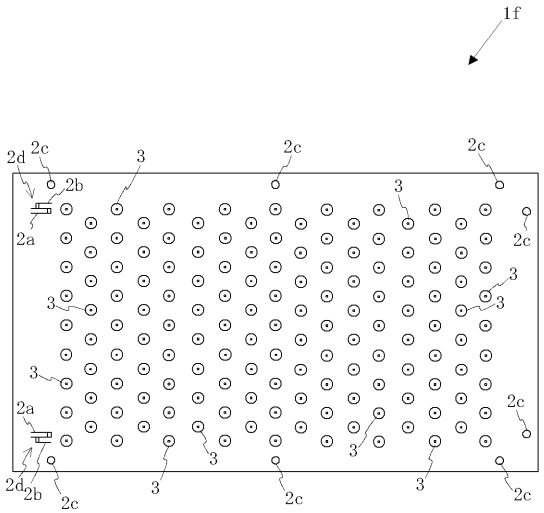
【図９】



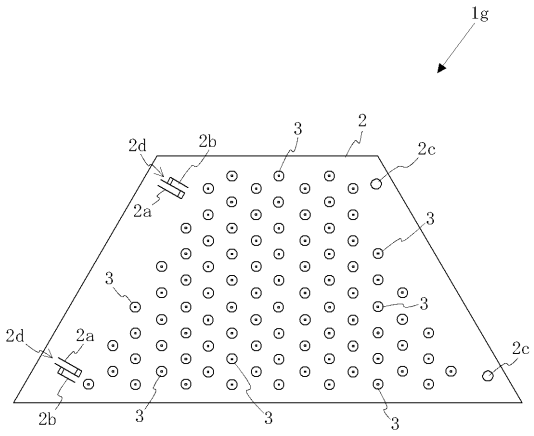
【図１０】



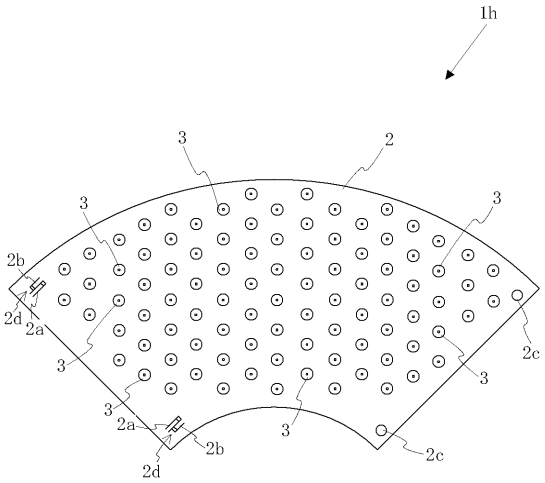
【図１１】



【図１２】



【図１３】



【図１４】

